

# 生駒市



学研北生駒駅

私たちのまち生駒市は、大阪都心から約20kmという交通至便な地にあつて、生駒山地、矢田丘陵など緑豊かな自然環境と伝統文化が息づく住宅都市としてめざましい発展を遂げてきました。

生駒市北部には、関西文化学術研究都市高山地区があり、奈良先端科学技術大学院大学をはじめ、民間の研究施設が立地する高度な学術研究ゾーンとして、生駒市の「最先端の顔」となっています。

このエリアと大阪都市部を結ぶ交通手段として、今春3月27日に誕生したのが近鉄けいはんな線です。これまで、生駒市北部から鉄道を利用する場合、近鉄奈良線各駅へのアクセス道路が混雑するなど、特に大阪方面への移動には不便な面



白庭台駅

向上しました。

けいはんな線は、大量、高速、安全といった特性を持つ一方で、省エネルギーで二酸化炭素等の排出が少ないなど、地球環境問題の解決にも貢献できる交通機関となっています。

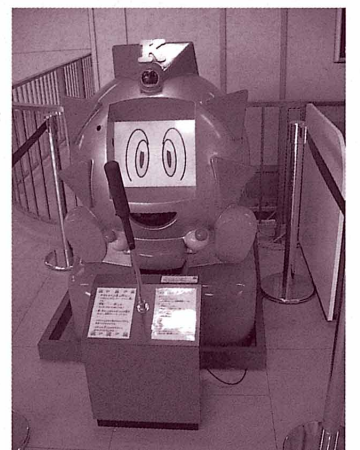
全線のはほとんどが高架とトンネルの構造で、道路との踏切事故となる平面交差は1箇所もなく、ロングレールなどを採用した環境にやさしい鉄道です。建設中においても近隣の住宅地域への騒音、振動を抑えるなど環境には十分配慮されています。

新たにできました白庭台駅、学研北生駒駅、学研奈良登美ヶ丘駅は、全ての方が快適に利用できるよう、



けいはんな線記念列車発車式

がありました。しかし、地下鉄中央線と相互直通運転されることにより、大阪都心部まで約35分と、従来に比べ所要時間が大幅に短縮され、通勤・通学の利便性が飛躍的に



自動音声情報案内システムロボット「キタちゃん」(学研北生駒駅)

ユニバーサルデザインを全面的に採用し、人にもやさしい、利便性の高い駅となっています。と同時に、学研北生駒駅は、先端大の研究成果が随所に展示され、まさしく「科学者と出会えるまち」の玄関口となっています。

鉄道新線が開業し新駅ができることで、まちの活気が生まれ、市民生活の利便性が向上するなど、より快適な住環境が実現できます。生駒市では新駅の誕生にともない、その利用促進を図るためにも、バスやマイカーから鉄道への乗り継ぎを円滑に行えるよう、駅前広場やアクセス街路の整備を進めてきました。パーク&ライド駐車場や自転車駐輪場も民間によって整備され、3つの新駅は交通結節点としての機能を発揮して、商業、業務機能の集積が進み、駅周辺地域の大規模宅地開発も進んでいます。

見慣れた市内の風景も、けいはんな線の車窓から見ると、またちがって見えるから不思議です。

未来と夢を乗せて走るけいはんな線。ぜひこの機会にけいはんな線に乗って、便利で快適な魅力あふれる生駒市をご覧ください。